

LORC研究会・イベント予定

6月

- 23日(金) 教育・研修システムWG第2回研究会
時 間： 16:30-18:30 (食事付き)
会 場： キャンパスプラザ京都6F龍谷大学サテライト教室
議 題： 1. 今年度における滋賀研修、寝屋川市研修、多治見市研修の企画について
2. 熊本市研修ビデオの活用方法について
3. その他

7月

- 15日(土) 第1研究班、政策デザインWG合同研究会
時 間： 13:00-16:00
会 場： 龍谷大学深草学舎紫英館第3共同研究室
- 15日(土) 第2研究班第2回研究会
時 間： 16:00-18:00
会 場： 龍谷大学深草学舎紫英館第3共同研究室

両研究会とも、議題などは決定し次第改めてお知らせ致します。

研究班及びWG活動報告

第1班RA 西原 京春

1班では、東京農工大COEとともに、資源循環と地域の活力とを両立させた持続可能な地域づくりについて検討をすべく会合を重ねてきました。今後は、三重県における事業との連携について考えていくとともに、東京農工大との共同事業のありかたを検討していきます。

研究業績の出版については、ブックレット・地域ガバナンスのシリーズ本として、既に「暮らしに根ざした心地よいまち」を刊行しましたが、さらに同シリーズ本「英国における地域戦略パートナーシップへの挑戦」、「持続可能な地域づくりを進めるためのハンドブック」、「成熟した関係性の構築に向けて：英国コンパクトの取り組み」の3冊を近日発刊する予定です。

また、第1班の白石先生を中心としたLORC研究員のグループが、

6月28日から7月6日まで9日間に関わり、ICLEIヨーロッパ(ドイツ)およびニューカッスル(イギリス)への調査訪問を行います。行程の中に、ノーサンブリア大学のボブ・エバンス教授らとの会合を組み込み、グッドガバナンスや持続可能な発展等の概念的枠組みについての議論をする予定です。

第2班RA 田村 瞳

5月20日(土)に第1回研究会を開催した。ここでは、昨年度の総括と今後の研究活動計画について議論し、以下の2つのポイントを今後の研究の柱とすることを決定した。

地域人材像の具体的モデルの検討、
大学・大学院教育の改革 - カリキュラム・プログラム整理
においては、地域人材像の具体的モデルを考えていながら、何が必要とされ、大学に何が期待され

LORC出版物・研究成果のお知らせ

LORCブックレット 「地域ガバナンスシステム・シリーズ」



No. 1 「地域人材を育てる自治体研修改革」
土山希美枝(著)
龍谷大学LORC(企画・編集)
公人の友社 刊、
定価(本体900円+税)
ISBN: 4-87555-901-1



No. 2 「公共政策教育と認証評価システム：日米の現状と課題」
坂本勝(編著)
龍谷大学LORC(企画)
公人の友社 刊
定価(本体1,100円+税)
ISBN: 4-87555-902-X



No. 3 「三重県政策開発研修センター平成16年度第6回トレンドセミナー記録：暮らしに根ざした心地よいまち」
東京農工大学COE、龍谷大学LORC(企画・編集)
公人の友社 刊
定価(本体1,100円+税) ISBN: 4-87555-903-8

LORCワーキング・ペーパー

No. 1: Charles Ehrhart (2005) "Touching the Ground: New Directions and Practical Experiences in Participatory Policy Research"

No. 2: Aili Mari Tripp (2005) "Rethinking the Public and Private a Time of Transition: Conflict in Jinja District as a Microcosm of Change in Uganda"

各種報告書

「地域政策を担う人材育成のあり方と課題に関するアンケート調査最終報告書」
LORC2003年度年次報告書
LORC2004年度年次報告書
LORC2005年度年次報告書

(ワーキング・ペーパー及び各種報告書については、LORCウェブサイト[<http://lorc.ryukoku.ac.jp/>]よりアクセス可能です。是非一度ご覧下さい。)

ているのか、また教育研修システムWGの成果はどうだったのか等を検討し、それらの議論を抽象化していくことが確認された。とりわけ、今までの第2研究班の地域人材育成のための教育研修における研究課題として、NPO・NGOにおける人材育成の議論の収斂が弱点に挙げられたため、数回にわたり研究会を開催することとした。

においては、LORCが目指す教育・研修・実践のシステムへの基礎研究として、RAの国内外の公共政策系大学院の調査をもとに、大学院のカリキュラム分析やプログラム整理を行う。また、今後LORCの研究成果を地域社会に還元するにあたり、月刊「地方自治職員研修」に積極的に論文等を発表していくことになった。次回の研究会開催は7月中旬を予定。

第3班RA 田村 瞳

今月は特になし。

第4班RA 新井 健一郎

去る5月19日に、2006年度第1回研究会（打ち合わせ会議）を開催した。そこでは主に、最終年度に出版予定である書籍、『Foundation for Local Governance』に向けた研究と、今年度からのスリランカでの実践を念頭に、今後の活動方針について話し合いがもたれた。出版計画については、10・11月あたりに再度、調整の場を設ける。また、前年度より継続して行っている研修機関のミニ・サーベイは、ウガンダと南アフリカのものが完結し、その他の国の調査も最終ドラフトの完成を待つのみである。4班の次回

の研究会は、6月7日に世界資源研究所のジェシー・リボット氏を迎えて開催する。テーマは、「ローカル・デモクラシーの形成と制度的選択」を予定。また、6月10日には、今年度より研究・実践活動の拠点となるスリランカの地方自治・地方制度について、ラクスリー・フェルナンド先生（コロンボ大学）と中村尚司先生（龍谷大学）からお話をうかがう研究会を催す。

特定研究WG担当RA 阿波根 あずさ

2006年3月31日に高島市・マキノまちづくりネットワークセンター・LORC間で3者協定が締結された事を受け、4月より本格的に「協働型まちづくり調査事業」がスタートした。政策デザインWG/LORCの担当は、職員研修、ワークショップ（出前まちづくり会2）、市民協働フォーラム、協働指針（提言書）を実施・作成する事、である。

まずさきがけて実施される出前まちづくり会では、マキノまちづくりネットワークセンターがコーディネーターとなり、市内6地域（朽木・今津・高島・新旭・マキノ）の地元地縁組織やNPOをネットワーク化する、という目的で話合いの場を設けている。月に1度1地域で実施し、1年間で2巡する予定である。1巡目は地元の人々が「出会い・集い」、2巡目は「学ぶ」場として地域の課題や地域資源について話し合う予定である。4月27日に朽木、5月は今津で交流会が実施された。地域によって行政、自治会やNPOへの認識が異なる意見が飛び交ったが、地域を再認識するという意味で有意義な交流会の場となった。2巡目の

「学ぶ」場からLORCがコーディネーターとして参加する。

現在は高島市と協働指針書のイメージについて議論を進めている。職員の「協働」の理解を深め、日々の業務の手引き書にもなる指針書の内容とはどのようなものか、またその指針書をもとに市民も分かりやすいパンフレットなども作成できないかなどを検討している。今後も3者で意見を交換しながら、夏頃までにLORCで素案をまとめ、検討会の場を設ける予定である。

教育・研修システムWG：

RA 田村 瞳

5月13日（土）に今年度第一回目のWGを開催した。ここではまず、今年度研修プログラムの実施を予定している多治見市、寝屋川市、滋賀（大津市、草津市、守山市）の各担当者及び関係者から研修実施に向けた現状報告があった。次に、熊本市研修のビデオ制作に関して、富野先生から進捗状況に関する説明があった。ビデオ自体は、次回の研究会開催までに完成する予定。次回の研究会でビデオの上映を行い、WGのメンバーに確認してもらうことで合意した。（ビデオタイトル：「参加と協働の時代を拓く新たな人材育成～熊本市・市民協働に関する職員研修の記録～」）最後に、熊本市研修のフォローアップについて、富野先生が作成したアンケート案をもとに検討したところ、従来の研修のアンケートのような一般化された質問事項ではなく、熊本市の協働型研修に特化したものに案を再構成し、次回のWGで再度議論することとなった。次回の研究会は、6月23日（金）の予定。

LORC Information

第1研究班白石先生一行のドイツ、イギリス調査

6月28日～7月6日にかけて、第1研究班代表白石先生をリーダーとするグループが、ドイツのフライブルクに本部があるICCLEI（持続可能性を目指す自治体協議会）ヨーロッパ事務局と、イギリス・ノーサンブリア大学のボブ・エバンス教授を中心とするグループを訪問します。今回は、主に「持続可能な発展」概念の再検討と概念の実現に向けたチャレンジについて、国際機関や自治体、NPOのスタッフ、そして大学研究者と、議論することが目的となっています。その上で、LORCのこれまでの研究成果と国際的な議論・取り組みがどのような関わり合いを持つのかの再確認も行います。調査の結果は、またNewsletterでお知らせします。

WG新メンバーの紹介

地域の利害関係者と共同で実施する職員研修システムの実践を進めている教育・研修システムWGですが、この度、新たに4名がメンバーとして加入されました。

藤井 敏久	(財)京都市市町村振興協会係長
広瀬 公	(財)京都市市町村振興協会主査
山内 俊房	亀岡市役所人事課
尾本 恵一	京都市人事委員会事務局任用課長(順不同、敬称略)

LORC資料室文献紹介

LORC支援室の蔵書をより分かりやすく管理するべく、現在データベース化を進めています。ウェブサイト上での資料検索も試験運用を開始しています(<http://lorc.ryukoku.ac.jp/resource.html>)ので、是非ご利用下さい。皆様からの有益な文献・映像資料などの情報をお待ちしております。ご協力宜しくお願い致します。

- 西尾勝、小林正弥、金泰昌(編)『公共哲学11 自治から考える公共性』(東京大学出版会、2004)
長谷部恭男、金泰昌(編)『公共哲学12 法律から考える公共性』(東京大学出版会、2004)
今田高俊、金泰昌(編)『公共哲学13 都市から考える公共性』(東京大学出版会、2004)
小林良彰、金泰昌(編)『公共哲学14 リーダーシップから考える公共性』(東京大学出版会、2004)
宮本久雄、金泰昌(編)『公共哲学15 文化と芸能から考える公共性』(東京大学出版会、2004)

雑誌の情報は以下のサイトへ!

ガバナンス

http://www.gyosei.co.jp/book/g_zassi/gover/index_gover.html

日経グローバル

<http://www.nikkei.co.jp/rim/>

LORC 持続可能な社会の構築シリーズ第1回講演会が開催されました

6月7日に世界資源研究所のJesse Ribot氏を迎え、LORC持続可能な社会の構築シリーズ第1回講演会「ローカル・デモクラシーの形成と制度的選択 “The Formation and Consolidation of Local Democracy and Institutional Choice”」を開催しました。代表(representation)の概念に焦点を置いて民主的分権化を検討した上で、現行の分権化政策では往々にして企業やNGO、慣習的な権威などに権限が委譲されており、本来地域において代表の仕組みを確保すべき地方政府・自治体に十分な力が与えられていないという同講演の論点は、民主的な分権化のあり方を探るLORCにとって非常に示唆に富んだものでありました。

当日の資料および報告書は、後日LORCウェブサイト(<http://lorc.ryukoku.ac.jp/>)に掲載致します。

編集後記

初夏の風がさわやかな季節となりました。冷たいものおいしい季節になりましたが、体調をくずさないよう、お気をつけください。(Ky)

いよいよ梅雨のシーズンが到来!雨ばかりであまり好きではないです。でもこれが明ければ明けたで、今度はむしろ暑いの暑い京都の夏が待っているのですが....

(H)

じめじめとしたいやな日が続きますが、お体にお気をつけください。(K)

LORCへ来て早2ヶ月、日常の業務にも慣れてきたところでしょうか。9年間住んだ奈良を離れ京都へ引っ越しました。にしても京都は暑い!これから始まる嫌な梅雨の時期を乗り切るために涼感を出そうとベランダでアジサイを育てはじめました。土の成分によって花の色が変わるらしく、思った色になる様に、親の様な気持ちで手入れしています。(A)

梅雨と迫りくる猛暑に向けて、皆様どうぞお体ご自愛下さい。(T)

LORC Newsletter Vol.19, 13 June, 2006

編集・発行: 龍谷大学地域人材・公共政策開発システムオープン・リサーチ・センター(LORC)支援室

〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町6-7 龍谷大学深草学舎紫光館3F

TEL: 075-645-2312 FAX: 075-645-2240

E-mail: matoba@rnoc.fks.ryukoku.ac.jp (PDの場) WEB: <http://lorc.ryukoku.ac.jp/>